

【解説】

第 1 問 世界史上の帝国や王朝の支配

A

問 1 正解② (世界史上の支配の仕組み) 1

- ①領邦教会制については P. 194 1 年表内のルター派の解説を参照。ルターはカトリック教会のヒエラルキーと、その頂点に立つ教皇の絶対的権威を否定し、聖書主義・万人祭司主義を唱えた。これを受容したルター派諸侯は各領邦内における教会支配を強めていった。ビザンツ帝国については、P. 139 を参照。
- ②宋代中国を悩ませた契丹・西夏・金の統治については、P. 153 の 3 で整理したい。金は女真人に対する部族制と漢人に対する州県制を併用した。前者が猛安・謀克と呼ばれる。
- ③マンサブダール制はムガル帝国の統治体制であり、P. 181 の 2 で詳しく解説されている。全ての官僚に位階と、それに応じた徴税権付の所領が支給された。ティムール帝国は 15 世紀のイランを支配した。P. 176 参照。
- ④半島統一以降の新羅・高麗・朝鮮については P. 174 の表を参照して、統治体制・文化および中国との関係などを比較整理したい。新羅の貴族制的身分制度(骨品制)に対し、高麗以降には、次第に特権化する官僚層(両班)を頂点、奴婢・賤民を底辺とする統治体制・社会体制が確立していく。

問 2 正解② (「ローマの平和」の時期の出来事) 2

「ローマの平和」と呼ばれる時代は、帝政ローマの前半である。P. 90 の年表で五賢帝時代までを確認しよう。

- ①同年表を見ると、イエスの処刑やネロ帝による迫害があり、キリスト教がある程度広まっていることに気づく。P. 94 の年表も参照すれば、キリスト教布教の中で、ペテロ・パウロが殉教したことが確認できる。
- ②P. 92 参照。ローマ法はローマ帝国の拡大とともに万民法の性格を帯び、『ローマ法大全』として集大成される。ただし、これはユスティニアヌスの時代。
- ③季節風交易のルートについては、P. 14～17 の全体地図に詳しい。これを証明する『エリュトウラー海案内記』については P. 158 の 2 や P. 353 を参照。

- ④P. 90 の年表に明記されている。ただし，大帝国の成立の裏にはゲルマン人やケルト人など被支配民族の屈辱がある。

問 3 正解③ (ローマ帝国の支配下にあった諸都市のその後の歴史) 3

- ①フィレンツェは毛織物産業の栄えた北イタリア諸都市の 1 つであり，北海・バルト海商業圏とも結合して繁栄した。P. 144 の 2 の図と地図 A で確認しよう。経済発展を背景に，メディチ家支配下のフィレンツェがルネサンスの中心地として開花していく様子は，P. 189 に詳しく解説されている。
- ②P. 178 の年表と地図 A で，オスマン帝国がアドリアノーブルを征服し，同地に遷都したことを確認。P. 40 の全体地図でもこの過程を確認できる。ガズナ朝は場所も時代も異なる王朝で，P. 180 の地図 A などを参照。イスラーム勢力のインドへの拡大の契機となった王朝である。
- ③いわゆる大航海時代の先駆けとなったスペイン・ポルトガルの対アジア交易については，P. 182 の年表でその過程を確認することができる。香辛料貿易はムスリム・北イタリア商人を経由する形から，リスボン・アムステルダム・ロンドンなど大西洋側の港湾都市に主導権が移っていく。P. 183 の 3 で整理しておきたい。
- ④聖地への十字軍の経過については P. 142 を参照。第 1 回十字軍でイェルサレム王国の建国に至るものの，ヴェネツィア商人主導でコンスタンティノーブルを占領した第 4 回十字軍のように，内部対立あるいは本来の目標を見失う場合も多く，大局的には失敗に終わった。

B

問 4 正解③ (世界史上の英雄伝説や叙事詩) 4

- ①『ラーマーヤナ』はヒンドゥー教の聖典の 1 つである。P. 97 の 2 参照。これが完成するのは仏教とともにヒンドゥー教も発展したグプタ朝時代である。P. 98 の年表で確認したい。
- ②『イリアス』はトロイア戦争などを描いた、ギリシア文学を代表する叙事詩である。P. 84 の 1 参照。P. 78 の人物コラムにある通り、トロイア戦争に関する叙述に興味を持ったシュリーマンが遺跡の発掘に従事し、ギリシア史の謎を解明した。
- ③P. 150 参照。『ローランの歌』は、中世ヨーロッパの騎士道精神に基づく文学作品の代表格である。
- ④P. 70 年表下に掲載。『ギルガメシュ叙事詩』はシュメール人の王を主人公としている。楔形文字の史料としても重要。地域特性と言える洪水についての記述は、旧約聖書にも見られる。

問 5 正解② (イングランド王ヘンリ 2 世の事績) 5

- ②③ヘンリ 2 世はアンジュー伯からイングランド国王に即位し、プランタジネット朝を創始した。P. 147 の地図 B・C を見ればわかる通り、イングランド国王の所領がフランスにも存在するという複雑な状況は、ノルマン朝時代にもすでに生じていたが、ヘンリ 2 世の即位によって大陸側の領土はさらに拡大した。この大陸側の領土を大きく失ったのがジョン王である。P. 148 の年表で確認したい。ジョン王の失政は貴族からの批判を招き、王権を制限するマグナ=カルタ承認に至る。つまり②が正解で、③は誤文である。
- ④の反乱は、マグナ=カルタを無視する国王に対するものだから、ヘンリ 2 世の時代ではない。これは P. 148 の 2 を参照。
- ①については P. 136 の 2 を参照。中世初期のイングランド史はアングロ=サクソン系の王家とデーン人(ノルマン人)の争いが繰り返されるので、しっかり整理したい。

問 6 正解① (世界史上の帝国) 6

- ①インカ帝国はスペインのピサロに征服されるまで、アンデス山系を支配した。優れた石造技術を持っていたことはマチュピチュの遺跡(P. 184 参照)からもよくう

かがえる。また，マヤ文明やアステカ文明と違い文字を持たなかったが (P. 185 の文明比較表参照)，キープと呼ばれる記録手段を有していた。

②清朝では，満州人は八旗と呼ばれる軍事組織に属し特権を与えられた。緑営は漢人による治安維持部隊である。いずれも P. 170 の²を参照。

③P. 242 の¹・²参照。ギュルハネ勅令でタンジマートを開始したのはアブデュル=メジト 1 世。その集大成とも言えるミドハト憲法を停止し，専制体制を復活させたのがアブデュル=ハミト 2 世である。

④P. 264 参照。日露戦争中，血の日曜日事件に端を発する労働者や兵士の蜂起に対し，ニコライ 2 世はウィッテを起用して十月宣言を出し，国会開設など民主化の方向性を示した (実際にはすぐに反動化する)。アレクサンドル 1 世は 1 世紀ほど前の皇帝で，ナポレオン戦争後のウィーン会議に出席した。P. 222 および P. 232 参照。

C

問7 正解④ (アジアにおける王朝や民族の興亡) 7

- ①P. 76 を見て、イラン文明とローマ帝国・中央アジア・インドとの関わりを確認したい。周辺諸国と抗争しながら、東西交易で栄え (P. 77 の[2])、宗教の伝播にも関わった (P. 77 の[3])。ホスロー 1 世は突厥と結んでエフタルを滅ぼすなど、ササン朝の最盛期を現出した。大月氏は、前漢の武帝が対匈奴政策の 1 つとして使者張騫を派遣した国である (P. 111 の[4]参照)。したがって、ホスロー 1 世とは時代が全く異なる。
- ②冒頓単于は匈奴最盛期の王であり、P. 111 に人物コラムがある。匈奴の強勢については P. 13 の全体地図でもイメージしておきたい。また、P. 13～27 の全体地図を順次見て、中国の北方で鮮卑→柔然→突厥と有力遊牧国家が入れかわる様子も確認しておこう。
- ③古代インドの諸王朝の領域については P. 98～99 の地図[A]～[D]参照。ヴァルダナ朝はインド北部を支配した。南インドでは、サータヴァーハナ朝・チョーラ朝・ヴィジャヤナガル王国が有力である。P. 99 の[2]も参照。
- ④クリミア戦争敗北後のロシアはアレクサンドル 2 世のもとで、国内の改革に向かう一方、中央アジア・極東への南下政策を強めていく。P. 233 の地図[C]と[3]の年表で、アレクサンドル 2 世時代にウズベク人 3 ハン国がロシア支配下に入ることを確認したい。

問8 正解③ (中国の歴史) 8

- ①宋と周辺民族との講和については P. 153 の[3]で整理されている。澶淵の盟は遼と結ばれた。金に中国北部を奪われた南宋は、13 世紀にモンゴル勢力に滅ぼされる。P. 152 年表参照。
- ②P. 117 の[6]参照。唐代初期の律令体制は均田制・租調庸制・府兵制の組み合わせになっており、口分田・永業田を給された成人男性が納税と兵役の義務を負った。しかし、貴族による荘園制も同時に発達したため、均田制・租調庸制の維持が困難となり、8 世紀には両税法が施行された。これは、土地・資産の所有に応じて課税するシステムであり、府兵制から募兵制への変更とあわせて律令体制の崩壊を示している。P. 120 の[2]には、租調庸制と両税法の比較表がある。
- ③P. 107 の[2]を参照して、春秋の五覇と戦国の七雄を確認。覇者は天下の覇権を握

っているが、尊王攘夷を唱えており、名目的に周王の権威を尊重していた。

- ④長江流域の穀倉化は江南開発の歴史でもある。P. 154 の³を見て、宋代の「蘇湖熟すれば」と明代の「湖広熟すれば」を確認しておこう。

問 9 正解③ (世界史上の歴史書) ⁹

- a 中国には、歴代王朝の正史を次の王朝が編纂する伝統がある。武帝時代までの正史と言える司馬遷の『史記』と前漢の正史である班固の『漢書』は、紀伝体で記述され、後の正史のモデルともなった。
- b P. 128 の一覧表を見ると、イスラーム文化におけるイラン人の役割の大きさが実感できる。ペルシア語文学はその典型である。ラシード=アッディーンの『集史』も歴史学の大業績と言える。イル=ハン国はモンゴル帝国の一部であったが、イランを支配して、イスラーム化していった(P. 126 の地図^Dや P. 127 の⁴など参照)。

第2問 世界史上の宗教や宗教集団

A

問1 正解① (シク教の歴史) 10

- ①P. 181 の[3]参照。シク教はヒンドゥー教とイスラームを、バクティ信仰およびスーフィズムの共通性を媒介として融合させたもので、ナーナクが創始した。
- ②シヴァ神はヒンドゥー教の最高神の1つ。P. 97 にシヴァ神像を掲載。
- ③イスラーム暦の起源は、ムハンマドがメディナに移住した聖遷にある。P. 122 の年表で622年の出来事を確認。あわせてP. 65 の[3]も参照しておきたい。
- ④唐代の文化は貴族的かつ国際的であり、特に長安の街並みには祆教(ゾロアスター教)寺院・景教(ネストリウス派キリスト教)寺院なども見られた。P. 119 でイメージを高めておきたい。P. 95 にはキリスト教の教義確立過程が掲載されており、景教はエフェソス公会議で異端とされた宗派と確認できる。

問2 正解④ (マウリヤ朝の首都とその位置) 11

P. 98 の地図[A]や[B]を見て、パータリプトラ(b)とプルシャブラの位置は最低限把握しておこう。aはハラッパの位置である。モエンジョ=ダーロと並ぶインダス文明の遺跡があり、P. 96 の地勢図で位置も確認できる。

問3 正解③ (世界史上の軍の指揮官) 12

- ①ハンニバルはポエニ戦争時のカルタゴの将軍である。P. 89 に人物コラムがある。イッソスの戦いはアレクサンドロス大王とアケメネス朝の間で戦われたもので、P. 82 に事項と場所が掲載されている。
- ②蜀は中国三国時代に四川を支配した。P. 113 参照。司馬炎は三国の1つである魏の重臣の家系から西晋を建国した。
- ③P. 249「チェック」参照。ゴードンは太平天国の鎮圧に向けて常勝軍を率いた。清と条約を締結していた列強は、その利権を守るため清朝側についたことを理解しよう。
- ④P. 247 の年表参照。劉永福の黒旗軍が反仏運動を起こした。鉄騎隊はピューリタン革命時のイギリスでクロムウェルが率いたものである。P. 205 参照。

B

問 4 正解④ (ユダヤ教徒の歴史) 13

ユダヤ人のテーマ史は P. 277 にある。シオニズム運動は同ページ[3]にある通り、パレスチナへの帰還と建国をめざす運動。

- ①バルフォア宣言は第一次世界大戦中のイギリス秘密外交に関連する宣言。P. 272 の[2]参照。ユダヤ系財閥からの融資を見返りに、イギリスがシオニズム運動を支持する内容であったが、フセイン・マクマホン協定などと矛盾しており、パレスチナ問題の契機となった。
- ②P. 73 の[3]参照。モーセはヘブライ人を率いてエジプトを脱出し、十戒を授けられたとされる。ユダヤ教の形式主義を批判したのはイエスであり (P. 94 年表)、隣人愛の思想はキリスト教・新約聖書に反映されている。P. 95 右下の比較も確認しよう。
- ③ユダヤ教の唯一神はヤハウェ。アフラ=マズダはゾロアスター教の神である。P. 77 の[3]で確認するとともに、ゾロアスター教の「最後の審判」の思想がユダヤ教・キリスト教に影響を与えたことも確認しておきたい。
- ④P. 277 の[2]に掲載。この冤罪事件はフランス第三共和政の不安定さを象徴している。ドレフュスを擁護したゾラのような人々と、ドレフュスを糾弾した人々で世論は二分された。

問 5 正解① (商業の歴史) 14

- ①P. 170 年表参照。乾隆帝は対ヨーロッパ貿易を広州に限定した。
- ②P. 125 参照。イスラーム世界の拡大は商業活動の発展と軌を一にしている。各都市にはバザール(スーク)が開設され、商人やウラマーのネットワークによっても布教活動や巡礼も盛んとなった。人々の動きをサポートするため、隊商宿も増加した。
- ③P. 144 の[2]参照。中世ヨーロッパでは、北海・バルト海商業圏と地中海商業圏をシャンパーニュの大都市が結びつけた。
- ④P. 168 の[2]がわかりやすい。明は琉球やマラッカを朝貢交易圏に取り込み、東アジア・東南アジアの海域世界で支配的地位を占めた。

問 6 正解② (シェークスピアの時代の出来事) 15

- ②シェークスピアはイギリスのルネサンスを代表する劇作家であり，P. 192 に人物コラムがある。P. 188 の²で活躍した時代を見ると，トマス=モアが 16 世紀前半，シェークスピアは 16 世紀後半となる。P. 198 の²も参照して，同時代のイギリス政治史に重ねてみよう。トマス=モアは第 1 次囲い込み運動に批判的な眼差しを向けたことで知られる作家で，ヘンリ 8 世の治世と重なる。一方，シェークスピアはエリザベス 1 世の治世で活躍するが，女王の死去とともにテューダー朝に代わってステュアート朝が成立する。
- ③P. 205 の年表でわかる通り，イギリスはステュアート朝のもとでピューリタン革命と名誉革命の激動を経験した。革命の結果，議会政治の確立に向かう同国において，責任内閣制の端緒となったのが，ハノーヴァー朝のジョージ 1 世のもとで組閣したウォルポールである。
- ①④これらは 19 世紀の出来事である。ラダイト運動は，産業革命に伴い危機感を持った手工業者等の「反乱」で，P. 213 に掲載されている。グラッドストンは 19 世紀イギリスの自由主義的改革を担った自由党の政治家であり，アイルランド問題の解決に尽力した。P. 226 で保守党ディズレーリとの政策の相違などを整理してみよう。

C

問 7 正解② (18 世紀のアラビア半島におけるイスラーム改革運動) 16

ワッハーブ運動については P. 243 「用語解説」 参照。ムスリムの原点をコーランとムハンマドに求める復古主義運動の 1 つであり、サウード家の支持を受けてワッハーブ王国の建国に至った。この王国は滅亡と再建を繰り返しながら (P. 242 年表)、第一次世界大戦後にはヒジャーズをも支配してサウジアラビア王国に発展する。

P. 272 の 3 を参照すると、サウジアラビア王国成立の背景にイギリスの存在があるとわかる。しかし、イギリスは大戦中の秘密外交でハーシム家への支援も約束していた (P. 272 の 2)。このため、第一次世界大戦後のトランスヨルダンとイラクでは、イギリス委任統治のもとでハーシム家の国王が迎えられた。P. 272 の 1 も確認しておきたい。

十二イマーム派はイスラーム・シーア派に属する。P. 125 の 3 でシーア派の特徴をおさえておこう。また、この一派はサファヴィー朝のもとで国教化される。P. 176 の 1 も確認したい。シーア派信仰は現代イランでも国民統合の役割を果たしている。

問 8 正解④ (宗教に関わる出来事) 17

① P. 95 で初期の公会議を整理しよう。エフェソス公会議ではネストリウス派が異端とされた。ウィクリフとフスは中世末期の教会改革運動の中心で、P. 146 の 4 に掲載されている。フスはコンスタンツ公会議の結果、異端として処刑されたが、その理念はフス戦争から、ルターの宗教改革に受け継がれていった。P. 194 の年表も確認しておきたい。

② P. 247 参照。イスラーム同盟はインドネシアで独立運動を展開した。

③ 巻末の「中国王朝の変遷」に民衆反乱の一覧もある。白蓮教徒の乱は清末の反乱。

④ P. 242 の年表で、カージャール朝が英露の圧力にさらされていく過程を確認し、英露協商で成立した 2 国の勢力圏も見ておこう (P. 243 の地図 B)。イラン側の抵抗運動として、バーブ教徒の乱、タバコ=ボイコット運動、立憲革命がある。それぞれの性格等については、P. 243 の右下で整理できる。

問 9 正解② (世界史上の占領) 18

P. 269 の 3 参照。ドイツに対する巨額の賠償請求は、1920 年代前半のヨーロッパ

の不安定要因であった。ドイツの支払い延期に対して、フランス・ベルギーがルール占領という強硬手段に出たことは、象徴的出来事と言える。この危機は、ドーズ案によっていったんは回避されることになった。

朝鮮半島の不安定な状態は、現在の日本にも大きな影響を与えており、その原点となった米ソによる分割占領や、その後の朝鮮戦争についての認識を深めておきたい。P. 296 の¹と²を参照。日本の敗戦後、北緯 38 度線を境界としてアメリカが南部、ソ連が北部を分割占領した。その後の朝鮮戦争でも紆余曲折を経て、北緯 38 度線が休戦ラインとなっている。ここは国境ではなく、軍事境界線である。

第3問 世界史上の都市とその建造物

A

問1 正解① (歴史的建造物) 19

- ①P. 174 の新羅・高麗・朝鮮の比較表で、新羅・高麗の仏教文化の発達を理解したい。P. 175 には慶州の仏国寺も掲載されている。新羅の仏教文化は日本の飛鳥文化にも影響している。
- ②ジャイナ教については P. 97 の2を参照。不殺生の戒律が厳しいことで知られ、現代インドにも信者が見られる。ポタラ宮はチベット仏教の聖地ラサにある (P. 171 に写真掲載)。ダライ=ラマがチベットの政治・宗教の最高指導者となり、清朝からも自治を認められていた。
- ③クトゥブ=ミナールはインドのイスラーム化を象徴する建築物で、P. 180 に写真がある。アフガニスタンからインドに侵入したガズナ朝・ゴール朝に続き、デリーを本拠地とした奴隷王朝時代の建造である。同ページの年表も参照しておきたい。ウルグ=ベクはティムール帝国の君主であり、P. 176 の年表に登場する。首都のサマルカンドに天文台を建設したことでも知られている。P. 177 にサマルカンドの写真もある。
- ④P. 151 にピサ大聖堂の写真がある。中世ヨーロッパの建築様式を P. 150 の2で整理した上で、代表例をビジュアルに確認しよう。万有引力の法則で有名なニュートンは17～18世紀の自然科学の発展を象徴する人物で、P. 206に掲載されている。現代にも通用する科学の発展は、一通り見ておくべきだろう。パスカルはデカルトと並ぶ大陸合理論の哲学者である。P. 207 の3や P. 206 の流れ図を見て、イギリス経験論との対比やドイツ観念論へのつながりを理解しておきたい。文化史も羅列的に記憶せず、前後との関係や政治史との関わりを意識しよう。

問2 正解① (ヨーロッパの河川に関わる歴史) 20

ライン川とドナウ川は古代ローマ帝国の国境線とほぼ一致する。P. 91 の地図E参照。一方エルベ川は、歴史的には西欧世界と東欧世界の境界ととらえたい。例えば P. 135 でフランク王国の東端を見てみよう。P. 142 に聖地回復のための十字軍活動が掲載されているが、広い意味では、イベリア半島でのレコンキスタ、ドイツ人の東方植民、アルビジョワ十字軍も、西欧世界の膨張を示す「十字軍的活動」である。

これらは P. 143 の [3] に詳しい。P. 149 の地図 [B] を見ると、東方植民の結果形成されたブランデンブルク辺境伯領やドイツ騎士団領が確認できる。前者は神聖ローマ帝国の選帝侯の地位も手に入れることとなる。

キエフ公国はノルマン人の移住と拡散の中で建国された。ノルマン人の移動と建国過程を P. 136 の [1] で整理し、P. 141 の [5] でロシア史の中にキエフ公国を位置付けて理解しよう。ギリシア正教徒の国教化によって、現代ロシアにつながる要素が登場した。

問 3 正解④ (世界史上のヨーロッパの君主) 21

- ①フィリップ 2 世はカペー朝の国王で(創始者ではない、P. 148 年表参照)、イングランドが大陸側に領有していた領土を奪い、アルビジョワ十字軍も開始して、王権を強化し、領土を拡大した。P. 147 の地図 [D] を参照しよう。
- ②P. 198 の [2] 参照。エリザベス 1 世はメアリ 1 世のカトリック復帰政策を否定して統一法を出し、国教会を確立した。公職を国教徒に限定する審査法を出したのはチャールズ 2 世である。P. 205 の年表で確認できる。
- ③P. 135 の年表参照。クロヴィスはアタナシウス派に改宗することで、フランク王国とローマ教皇が結び付く基礎を形成した。ヴァンダル王国はアフリカのゲルマン国家である(P. 134 の地図 [A] 参照)。
- ④スペイン国王としてのカルロス 1 世は、南米進出の時代を担った。P. 182 の年表確認。しかし、彼はハプスブルク家出身であり、神聖ローマ皇帝位を兼ねた。皇帝としてはカール 5 世と呼ばれる。この点については、P. 198 を参照。退位に際して、息子と弟に皇帝位や所領を分割委譲したため、ハプスブルク家が 2 系統に分かれた。同ページの地図 [A] で詳細を確認しよう。

B

問 4 正解④ (東欧や北欧の歴史) 22

- ①P. 136 の地図[A]で、マジャール人の移動を確認したい。ゲルマン人に続いてノルマン人・イスラーム勢力・マジャール人などがヨーロッパに侵入した。ハンガリーはマジャール人の王国として大国となる。P. 141 の地図[B]・[C]参照。
- ②カルマル同盟は北欧におけるデンマーク中心の同君連合である。P. 149 の地図[B]を見ると当時の北欧ではドイツ騎士団領が勢力を拡大する一方、北海・バルト海商業圏をハンザ同盟が支配しつつあったことがわかる(P. 144 も参照)。これに対抗して、カルマル同盟やリトアニア=ポーランド王国(ヤゲウォ朝)の台頭を位置付けたい。バルト三国の地域はこの時代、ヤゲウォ朝や騎士団領となっている。
- ③P. 140 の年表参照。ヤゲウォ朝のもとでドイツ騎士団との戦いに勝利をおさめた(タンネンベルクの戦い)ポーランドは中世末期の大国となったが、同王朝の断絶後、選挙王制が行われるようになり、P. 203 の[3]に見られるように、国王選挙への列強の介入とポーランド分割を招いた。ハノーヴァー朝はウィンザー朝への改称を経て、現在まで続くイギリス王室である(P. 344)。成立は18世紀初頭にさかのぼる(P. 205 年表)。
- ④ビスマルクによるドイツ統一過程はP. 228 の年表と地図[A]・[B]で整理しよう。デンマーク戦争でシュレスヴィヒなどを獲得し、プロイセン=オーストリア戦争で北ドイツ連邦を成立させ(統一ドイツからオーストリアを排除)、プロイセン=フランス戦争で南ドイツを併合した。

問 5 正解③ (世界史上の首都) 23

- ①アケメネス朝には行政府の置かれたスサ、儀式用の壮大な宮殿遺跡の残るペルセポリスなど、いくつかの「都」があった。P. 74 の地図[B]で位置を、P. 75 のコラムでペルセポリスの様子を確認しておきたい。クテシフォンはパルティアとササン朝の都であり、P. 76 の地図[A]・[B]で確認できる。
- ②P. 123 参照。コルドバは後ウマイヤ朝の都であり、現スペイン南部に位置しているがイスラーム建築などが多く現存し、異国情緒の漂う地域と言える。サーマーン朝についてはP. 126 の地図[A]を参照。同王朝はイラン系のイスラーム国家であり、隣接したトルコ系のカラハン朝のイスラーム化とトルキスタンの成立に大きな影響を与えた。

- ③アステカ王国については P. 185 に整理されている。マヤ文明からピラミッド建築などを受け継ぎ、コルテスに征服されるまでメキシコを支配した。
- ④アッシリアはオリエント世界を初めて統一した国家である。P. 74 の地図[A]で領域を確認しておこう。都はアッシュルとニネヴェである。テーベはナイル川中流に位置し(P. 72 の地図[A])，エジプト中王国・新王国の都となった(P. 70 の年表)。テーベは神官団の勢力が強く，イクナートンが遷都する一因となった(P. 72 の人物コラム)。

問 6 正解② (第二次世界大戦中の出来事) 24

- ①P. 278 の年表参照。台頭するファシズム勢力に対抗するため，コミンテルンが人民戦線を提唱すると，スペインやフランスで人民戦線内閣が成立した。ブルムはフランスの人民戦線内閣の首相である。第二次世界大戦が始まると，パリはドイツ軍に占領され，ペタンを首班とするヴィシー政権が成立する一方(P. 280 参照)，ド=ゴールの亡命政権が海外からレジスタンスを呼びかけた。
- ②武器貸与法については P. 280 の年表で確認。アメリカの安全保障に重大な影響が考えられる場合は，大統領が他国に武器や食糧を提供できることを定めたもので，イギリス・中国・ソ連に適用された。
- ③P. 280 の地図[A]参照。スターリングラードは大変な激戦地であるが，ソ連へのアメリカの援助も功を奏して，ドイツ軍の敗北に終わった(同ページの年表に掲載)。
- ④連合軍がシチリアに上陸する頃，イタリアのムッソリーニは失脚し(P. 280 の年表)，政権を引き継いだバドリオ政府が無条件降伏した。同ページの地図[A]からわかるように，ヨーロッパでも中立国はいくつかある。スイスのほかにスペインやトルコなどである。

C

問 7 正解② (世界史上の都市) 25

- ①宋代経済の発展については P. 154 でイメージを掴みたい。景德鎮は陶磁器の産地であるとともに、鎮と呼ばれる交通の要所でもあった。宋銭や交子の流通も都市経済を支えており、宋銭は日本・東南アジアでも使用されていた。
- ②リュウベックについては P. 145 参照。この都市はハンザ同盟の盟主である。ロンバルディア同盟は北イタリアの都市同盟であり、神聖ローマ皇帝のイタリア政策 (P. 149 参照) に対抗する意味合いが強かった。P. 148 の年表も確認しよう。
- ③P. 131 の 6 参照。インド洋を経由した交易に伴い、モンバサ等の東アフリカ地域ではスワヒリ文化が形成された。明朝の鄭和の遠征隊が到達したことでも知られる。
- ④イギリス・フランスのインド進出については P. 210 の年表で確認。ポンディシェリ等の拠点を得たフランスは、18 世紀半ばまでに第 2 次英仏百年戦争に「敗北」し、インド経営はイギリスが主導することとなる。

問 8 正解② (宋代の新法) 26

- ①P. 153 の 2 参照。文治主義が採用され巨大な官僚機構が整備された上、契丹・西夏との講和を維持するための出費の増大が重なったことで、北宋の財政は悪化した。これを受けて、財政再建と富国強兵をめざしたのが王安石の新法である。しかし、司馬光など保守派の抵抗にあった。
- ②新法の内容の一覧で確認。市易法は大商人勢力の抑制をめざしている。青苗法と募役法は自小作農の没落防止だから、地主勢力の抑制と言える。
- ③保甲法・保馬法などの強兵策は対西夏・対契丹を想定している。カラ=キタイ(西遼)は、金が契丹を滅ぼした後、耶律大石が西遷して建国したもので、新法改革期とはずれている。P. 152 の年表と地図 B で確認。
- ④P. 166 年表参照。万暦帝時代の明は弱体化しつつあった。豊臣秀吉に対抗した朝鮮への援軍で財政は窮乏に拍車がかかり、東林派と非東林派の党争が激化して中央政府も混乱した。李自成の乱を招いた時代と考えてよいだろう。

問 9 正解② (19 世紀末から 20 世紀初めの中国の貿易) 27

- a 正しい。P. 270 の図「●債務国から債権国へ」を見て、第一次世界大戦を境に

アメリカが債権国となり，国際経済への影響力を拡大したことを確認したい。

- b 誤り。五・四運動については P. 274 の年表参照。ヴェルサイユ条約で山東権益が返還されなかったことに不満な学生や民衆が五・四運動を展開し，中国政府は調印を拒否した。義和団事件は P. 250 の¹。この出来事は南アフリカ戦争と同時期であり，イギリスは中国に派兵する余力に乏しかった。日露が義和団-清朝連合と戦う主力となった背景も理解しておきたい。

第4問 世界史上の人の移動と戦争との関わり

A

問1 正解① (世界史上の人の移動とその影響) 28

スペインの植民地支配に関しては P. 185 や P. 186 を参照。スペイン国王が征服者に土地や先住民の支配を委託するエンコミエンダ制が施行され (P. 186 の 2), 鉱山労働の厳しさや, ヨーロッパ人の持ち込んだ天然痘などの病気によって, 先住民の人口は激減した。ヨーロッパとアメリカ大陸の接触によって生じた動植物などの交流は「コロンブスの交換」といわれる。P. 186 の 1 でその詳細を確認しよう。

問2 正解① (世界史上の反乱) 29

- ① P. 102 の年表参照。広南と黎朝を打倒して, ベトナム初の南北統一を果たしたのがタイソン(西山)の乱である。その後, これを平定した阮福暎によって阮朝が創立された。
- ② P. 109 の 2 で秦の支配体制を確認しよう。中国史上初の「統一」政策は法家主義の採用を含めた強圧的な側面を持っていた。このため, 始皇帝の死後まもなく, 陳勝・呉広の乱が勃発した。
- ③ P. 146 の 1 の図式を見て, 封建社会の変容過程を整理しよう。貨幣経済の発達には賦役・貢納の貨幣地代への転換をもたらした, 黒死病流行に伴う人口減少も重なって, 農民の地位が向上した。封建領主側が反動的政策を採用すると, フランスのジャックリーの乱, イギリスのワット=タイラーの乱など, 農民一揆が相次いだ。農民一揆や黒死病の大流行は, 百年戦争中の出来事である。P. 148 の年表で確認し, 時代の転換点として認識を深めよう。
- ④ ハイドゥの乱はフビライの継承したモンゴルの大ハン位をめぐる争いで, P. 162 の年表と系図を見て確認したい。モンゴル帝国は地方政権を大ハンが緩やかに統合するスタイルであったが, ハイドゥの乱を契機に分裂傾向が強まり, 元朝と各ハン国はそれぞれ事実上の独立国家の様相を呈した。

問3 正解③ (エカチェリーナ2世の事績) 30

エカチェリーナ2世はロシアの啓蒙専制君主として知られる。P. 204 を参照して, 事績を整理しよう。ラクスマンを日本に派遣したほか, クリミア半島など, 黒海沿

岸にも領土を拡大した。アメリカ独立戦争やフランス革命と同時代の君主なので、それぞれにどう関わったかも知っておく必要があるだろう。3回にわたるポーランド分割全てに参加した。

①P. 201 で確認。ルイ 13 世とリシュリユー，ルイ 14 世とマザラン・コルベールという組み合わせは知っておきたい。

②ウィルソンの十四カ条の内容は P. 266 右上に掲載。民族自決や秘密外交に触れている点で，2カ月前に出されたレーニンの「平和に関する布告」との関係がうかがわれる。P. 261 の年表も見ておきたい。

④P. 244 参照。インド大反乱の結果，ムガル皇帝の廃位と東インド会社解散が決定され，イギリス領インド帝国が正式に発足した。イギリス国王(当時はヴィクトリア女王)がインド皇帝を兼ねた。この出来事は保守党ディズレーリ政権の帝国主義的政策のあらわれと言えよう。P. 245 の³も参照。

B

問 4 正解③ (ルワンダ内戦の時期) 31

P. 304 参照。a の時期はまだ、アフリカのほとんどが植民地である。b の時期には「アフリカの年」=1960 年が含まれ、一気に独立国が増加する。c の時期には南部も含めて、アフリカ全体がほぼ独立を達成する一方、民族紛争が多発するようになった。この中にルワンダ内戦も入っている。d の時期には、南スーダンの独立があったほか、ソマリア・西サハラなど未解決の紛争が存在する。また、長期政権に対する不満が爆発して、「アラブの春」と呼ばれる変革運動が起こり、アフリカに新しい潮流も見え始めた(P. 314 参照)。なお、難民の時代に関連して、P. 9 の地域別難民数のグラフも参照。

問 5 正解③ (両大戦間期の出来事) 32

- ①P. 310 の年表参照。ブレジネフは社会主義体制を守ることを優先し、「プラハの春」に対する軍事介入を行った。
- ②社会主義の動きについては P. 255 の 3 参照。イギリスは議会政治の発達が早く、議会を通した漸進的改革をめざす社会主義運動が主流であった。フェビアン協会から労働党への流れは基本事項である。
- ③外モンゴルの独立宣言は清朝滅亡の直前であるが(P. 251 の 5)，中華民国に対抗しつつソヴィエト政権の支援を受けたモンゴル人民共和国の成立は、当然ロシア革命後の戦間期になる。P. 265 の地図 B で確認したい。
- ④第二次世界大戦後の国際軍事裁判については P. 283 の 3 で確認。

問 6 正解② (スペインの歴史) 33

- ①P. 134 の地図 B 参照。東ゴートはイタリアを支配した。スペインを支配したゲルマン国家は西ゴート。
- ②レコンキスタの経過は P. 143 の地図 F・G・H などで整理しておきたい。レコンキスタの終了に合わせるように、スペイン王国が成立する。対峙したイスラーム側の王朝や、トレドでアラビア語の文献がラテン語に翻訳されることで発展した 12 世紀ルネサンス(P. 161 の 3 に詳説)など、関連事項にも注意したい。
- ③ユトレヒト条約の内容は P. 211 にまとめられている。第 2 次英仏百年戦争の中で締結された条約で、イギリスが領土を拡大したほか、スペイン植民地における奴

隷供給権を得て覇権を拡大した。ジブラルタルはイギリス領になるので注意。

- ④P. 279 の³参照。スペイン内戦はファシズム的なフランコ政権とアサーニャ人民戦線内閣の戦いであり，英仏の不干渉もあってフランコ側が勝利した。

C

問 7 正解③ (世界史上の亡命) 34

- ①チベット問題については P. 295 で確認できる。チベットは中華人民共和国内の自治区であるが、その支配体制に対しては人権上の批判が根強い。ダライ=ラマ 14 世はインドに亡命政権を樹立した。
- ②ジェームズ 2 世は名誉革命でフランスに亡命した。P. 205 の年表を確認しよう。バラ戦争は 15 世紀のイングランドの内乱で、有力諸侯の没落をもたらした。こちらは P. 148 の地図 A を参照。
- ③20 世紀を代表する人物の一人であるアインシュタインについては、P. 317 に人物コラムがある。正確な伝記は知らなくても、①②④がはっきりと誤りなので、消去法でも解答は可能だろう。
- ④P. 174 参照。衛満は古朝鮮時代の人物。渤海を建国したのは大祚榮であり、日本から遣唐使と並んで遣渤海使も実施された(地図 D)。

問 8 正解① (20 世紀前半の中国の歴史) 35

- P. 251 と P. 274 の年表で時代順に並べ替えつつ、確認してみよう。
- ③は誤り。鉄道国有化に対する暴動は四川暴動・武昌蜂起である。
- ④は誤り。孫文は南京で中華民国の臨時大総統となった。
- ①は正しい。袁世凱の臨時大総統就任の裏には、孫文との密約があった。この後、袁世凱は自軍閥の拠点である北京で執務する。
- ②は誤り。浙江財閥の支援を受けた蔣介石は共産党追放に向かい、武漢政府と南京国民政府の対峙を経て、国共分離に至った。

問 9 正解④ (冷戦期の出来事) 36

- ①P. 311 参照。ドプチェクはチェコスロヴァキアで「プラハの春」と呼ばれる自由化運動を推進した。
- ②P. 308 参照。アデナウアーは西ドイツの経済復興を指導した。
- ③④P. 287 の 3 参照。冷戦に伴い、東西両陣営で安全保障体制が構築されていくことになる。東側のワルシャワ条約機構を包囲するように、西側の ANZUS・CENTO・NATO・日米安保などがある。CENTO の母体はバグダード条約機構である。